

エリア ウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

閲覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。 この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

頼りにされることの幸せ

その子は、毎日親からなぐる蹴るの虐待を受けていました。見かねた近所の人からの通報で、児童相談所がその子を保護することになりました。

児童相談所はこのまま親に引き渡すことはできないと考えていました。何よりも子ども自身が親と暮らすのはいやだろうと思っていました。しかし、子どもは「親といっしょに暮らしたい。」と言うのです。

結局、その子は、虐待していた親に引き取られていきました。でも、決して嬉しそうな顔ではなかったそうです。

ある講演会での話です。何とも胸がつかまる内容でした。

小さな子どもにとって親は絶対の存在なのです。

- ・絶対自分を愛してくれる人
- ・絶対自分を守ってくれる人
- ・絶対自分を信じてくれる人
- ・絶対自分を育ててくれる人

この「絶対」が最近崩れてきていることに不安を感じます。特に子どもを虐待したり、育児を放棄したりする親には怒りすら覚えます。

こんな話もあります。

産まれて間もない赤ちゃんを見ていると、ニコッとすばらしい笑顔を見せることがありますね。親もそれを見て幸せな気分になり、わが子を愛おしく思います。



ある学者はこう言います。

赤ちゃんの笑顔は、「生きるための本能」である。つまり、この時期、親から見放された子どもは、生きることができない。

だからこそ、親の愛情を得るために、まさに「天使の笑顔」を見せるのである。

もちろん意識的に笑っているのではないでしょう。無意識に、親の愛を必要としているのです。

逆に言えば、親は絶対に子どもから必要とされているし、それに応えなくてはならないとも言えます。

子どもたちは無条件に親を頼りにしています。怒られても叱られても、やはり親が大好きだし、いっしょに暮らしたいと願っています。きっとそうした時期があるからこそ、しっかりした自立ができるのだと思います。

無条件に頼りにされることの幸せを、もう一度考えてみてはいかがでしょうか。



「子育てと家づくり」



子育てと家づくり。どんな関係があるのでしょうか？
次のような家庭のタイプがあるそうです。

「レンガ壁タイプ」の家庭

「クラゲタイプ」の家庭

「背骨タイプ」の家庭

「子どもに変化を起こす簡単な数貫」

バーバラ・コロロソ著：参照

これらはどんな家庭なのでしょう？

「レンガ壁タイプ」の家庭

「レンガ壁タイプ」の家庭は、頑として動かない骨組みを備えています。権限は全て親の手に握られています。

《特徴》

力関係で子どもを支配し、過ちを許さない。
厳しい決まりをしつこく言い聞かせ、親に従わせようとする。
皮肉や悪口をぶつけて屈辱を与える。
闘争心をあおり、やたら競争させる。
子どもは人の顔色を見るようになる。

「クラゲタイプ」の家庭

「クラゲタイプ」の家庭には、骨組みはないのも同然で、行き当たりばったりの子育てが中心です。

《特徴》

家族中がだらしない環境に置かれるので、秩序が守れず放任状態。
気まぐれで安直な罰とほうびを与えるので、子どもにストレスがたまる。
子どもは、親のご機嫌とりをするようになる。
自分で考えられず、悪い仲間や誘惑に引きずられやすい子になる。

「背骨タイプ」の家庭

自分がかげがえのない存在であることを子どもが理解できるように、必要な骨組みを与えてやります。自分がかげがえのない存在だと確信すれば、自分をも他人をも愛し、思いやることができるようになります。

《特徴》

子どもを無条件に愛し、受け入れ、尊重しながら子どもを育てる。
いけないときには叱るが、励ましながら、子どものやる気を伸ばす。

子どもが失敗しても、失敗から学ばせ、立ち上がるようにさせる。
子どもは自分に自信を持ち、物事に挑戦し、思慮深い子になる。

「レンガ壁タイプ」の家庭や「クラゲタイプ」の家庭で育った子どもに共通することは何でしょうか？

それは、「自分の頭で考えることができない」ということではないでしょうか。
レンガタイプの家庭で育った子どもは、親が望むことだけを考え、親の言う通りに行動する子になります。

また逆に、クラゲタイプで育った子どもは、自分で考えることや問題を解決する方法を教えてもらっていません。だから何をどうすればいいのか分からず、先に進めません。

「背骨タイプ」。なかなかいい名前ですね。

子育ての目的は何でしょうか？

それは、どんな社会の中でも、一人前の人間として、たくましく生活できる大人に育てることです。

そのためには、家庭の中にしっかりした背骨が必要です。子どもを愛する、愛するが故に励まし、時には叱る。そんな基本的なことが当たり前できている家庭の中で育った子どもは、自分の中にたくましく背骨を作ります。そして、自分に自信を持ち、自分の頭で考える子どもになるでしょう。

あなたの家庭はどのタイプですか？
ぴったり当てはまるタイプはないかもしれませんが。

ただ、少しでも力強い背骨をもつ家庭づくりの参考になればと思います。

「早寝・早起き・朝ごはん」パート2

～小さなSOSを見逃さないで～

毎日のように朝帰りが続くA子。母親が注意をしても、父親が激しく叱っても、かえって反抗を強め、関係は悪くなるばかりでした。

薫（わら）にもすがり思いで、ある人に相談をしたところ、次のことを毎日するように言われたそうです。それは、次の3つのことです。

両親はグチグチと小言を言わない。食卓におにぎり2個とみそ汁だけ置いて、両親は先に寝る。

玄関の明かりを一晩中点けておく。親は、半信半疑で言われるとおりにしました。変わらない日が続きました。しかし、何日かすると、おにぎりが一つだけ食べてありました。そのうちに、おにぎりもみそ汁もきれいになくなっていったそうです。

そのころからA子に変化がでてきました。時々、早く帰ってくるかと思うと、夕食の手伝いをするようになったのです。これには、母親も涙が出るくらい嬉しかったそうです。

まだ完全とは言えませんが、少しずつ親子の会話が増え、関係が良くなってきたそうです。



左の話が、なぜ「早寝・早起き・朝ごはん」と関係があるのでしょうか？

この運動は、「規則正しい生活」「学力の向上」「体力や精神力」に効果があるとされています。

しかし、もう一つ大切な効果として、「安心できる家庭づくり」があると思います。夜ぐっすり眠る。朝、気持ちよく目覚める。そして、おいしい朝ごはんを食べ、一日をスタートさせる。

そんな安心感こそ、家庭の持つ大きな役割だと思えるのです。安心した家庭があるからこそ、学校で頑張ろうという意欲も出るでしょうし、学校でいやなことがあっても、親に相談しようと思わないででしょうか。

この話には、子育ての大切なポイントが含まれていると思います。

「親は、子どもを絶対に見捨てない」というメッセージを子どもに伝える。「いつでも安心できる温かい家庭」のため家族が協力する。

A子も、突然家に帰って来なくなったわけではไม่ใช่。必ず小さな兆候があったはず。「助けて！」「私を守って！」というシグナルを出していたはず。そのシグナルを親が見逃してしまったために、家の外に助けを求めたのかもしれない。

そんな時、子どもの話をじっくり聞いて、子どもを守っていかうという家庭であれば、きっと朝帰りをくり返すまでにはならなかったと思うのです。

「早寝・早起き・朝ごはんの大切さは分かるけど、なかなか実行できない。」という声をよく聞きます。

そんなとき、目の前の子どもをよく見てください。わが子が苦しんで、小さなSOSを出しているかもしれません。

峡東地区子育て通信

「大変だけど、楽しい子育て...」

《わかば保育園》(笛吹市石和町市部 693)
わかば保育園では、0～3歳までの子どもさんを対象にしています。



(保育士さんに子育て相談)

月に1回、子育て支援として親子で保育体験を実施しています。

この日は、朝からの雨のため13組中7組の参加でした。

手遊びや歌を楽しみ、親子で工作をしました。お母さんたちは、保育士さんたちから、子育てについて話を聞いていました。

来園されたお母さんの一人は、「夕方の忙しいときになると、子どもが必ず泣き出すんですね。でも、子育ては大変だけど、楽しいです。」という声が聞かれました。



(笑顔でふれあう親子)

一人でいろいろな考えながら子育てをするより時にはみんなが集まって交流することも大切だなと感じました。

峡東地区「子育て講演会」

～地域教育とまちづくり～

日時；平成19年8月7日(火) 午後2時45分～3時15分 受付
午後3時15分～4時55分 講演会

場所；山梨市民会館
3階「大集会室」(千鳥の間)

主催；峡東地域教育推進連絡協議会
峡東教育事務所

家庭が孤立することなく、学校が地域に開かれ、地域全体で子育てをするんだという意識をもっと高めていく必要があります。

このようなことをみんなで考え合う機会となればと思います。



講師；栗田真司先生

《プロフィール》

岐阜県生まれ、北海道で漁師、浄土真宗の僧侶、保育の経験の後、筑波大学教員、放送大学客員教員を経て現在、山梨大学准教授(生涯学習講座)。

専門分野は、生涯学習、教育評価、子ども文化。

申し込み；各所属 又は、峡東教育事務所 地域教育推進スタッフまで

TEL 0553-20-2737 FAX 0553-20-2733

E-mail nakabayashi-axyg@pref.yamanashi.lg.jp

締め切り；7月13日(金)までにお申し込みください。